

環境マネジメント

公害防止法規制への対応

社内自主管理基準値の設定と管理

環境関連法規や条例の規制の基準値に対し、井関グループ国内3製造所では、より厳しい自主管理基準値を設定し管理しています。2017年度の実績は、全て自主管理基準値をクリアし、環境汚染低減に向け推進しました。

測定項目	単位	井関松山製造所			井関熊本製造所			井関新潟製造所		
		規制基準値	自主管理基準	2017年度測定値	規制基準値	自主管理基準	2017年度測定値	規制基準値	自主管理基準	2017年度測定値
水質	浮遊物質(SS)	600	500	230	200	40	1未満	90	45	2
	生物化学的酸素要求量(BOD)	600	500	170	25	8	1未満	60	30	11
	n-ヘキサン抽出物質	30	18	14	5	2.4	0.5未満	5	5	1
大気	ばいじん	0.30	0.18	0.01未満	0.3	0.08	0.01未満	0.2	0.1	0.01
	窒素酸化物(NOx)	260	91	42	250	200	53	230	50	15
	ばいじん(鑄造電気溶解炉)	0.10	0.08	0.01未満	-	-	-	-	-	-

- : 該当設備なし、又は規制値対象外

環境データの測定頻度

設備・場所	測定項目	測定回数		
		井関松山製造所	井関熊本製造所	井関新潟製造所
工場排水	水質	1回/年	1回/年	1回/月
鑄造溶解炉	大気	2回/年	-	-
ボイラー		2回/年	2回/年	2回/年
敷地境界線	騒音	2回/年	1回/年	1回/年
	振動	2回/年	-	-

- : 該当設備なし、又は規制対象外

環境会計

井関グループでは、環境保全活動にかかわる投資と費用のコストを集計することにより、環境保全等に関する経営判断に活用すること等を目的として環境会計に取り組んでいます。

2017年度の環境保全コストは、投資額306百万円(公害防止・環境保全・資源循環コスト等)でした。費用額は474百万円で、主に欧州、米国、東南アジア、日本の法規制に対する大気汚染防止のひとつとして、ディーゼルエンジン排出ガス規制対応及び、燃費向上等を目的に投資を行っています。

環境保全対策に伴う効果は、経済効果と、物量的(削減量)効果があります。

2017年度の効果は、廃棄物の再資源化や塗装方法の効率化、省エネルギー機器の導入、加工設備等のインバータ化等によるものです。

環境保全コスト					環境保全対策に伴う経済効果		
分類	主な取り組みの内容		投資額(百万円)	費用額(百万円)	効果の内容		金額(百万円)
(1) 事業エリア内コスト			269	67	(1) 各種資源投入量の削減	2.6	
内訳	①公害防止コスト	排水処理	3	40	(2) 環境負荷物質の減少	53.1	
	②地球環境保全コスト	インバータ取付	265	2	(3) エネルギー消費量の減少	3.0	
	③資源循環コスト	廃棄物処理	0	47	合計	58.7	
(2) 上・下流コスト	グリーン購入		0	34	環境保全対策に伴う物量効果		
(3) 管理活動コスト	環境マネジメントシステム維持		0	57	比較指標の分類		減少値(t)
(4) 研究開発コスト	排出ガス規制対応		37	304	投入	エネルギー起源のCO ₂ 排出量	4,192
(5) 社会活動コスト	周辺清掃活動・社会貢献		0	12		水の投入量	2,500
(6) 環境損傷コスト	-		0	0	排出	廃棄物の再資源化量	6,499
合計			306	474			

対象：国内3製造所および砥部事業所

※3製造所：井関松山製造所・井関熊本製造所・井関新潟製造所。
 ※井関邦栄製造所は、2018年1月井関松山製造所と合併しました。